

## 司書課程・司書教諭課程行事報告

例年どおり、まずはGWに入ったばかりの4月29日(土)の午後に、図書館ガイダンスを開催した。尋真館地下1階1番教室で全体会を行った後、尋真館地下1階の各教室にて分科会を行い、その後、改めてまとめの全体会をもった。約70名の学生が出席した。各分科会の講師をお引き受けくださった卒業生は、次のとおりであった。遠方から毎年駆けつけてくださる方もおられる。講師の皆さま、今年もありがとうございました。

昨年度から国立国会図書館グループが専門図書館グループと分かれて独立したのだが、今年になってその形で安定したように感じられた。一方で、専門図書館の部会は、講師をお引き受けくださる方を探するのが率直に言ってなかなか容易ではない状況にある。専門図書館は、企業内の図書館をはじめとして、学生には関心が高いのだが、就職がことのほか困難ということか。

公共図書館グループ：竹内洋介氏(富山県立図書館)；西尾恵一氏(大阪府立図書館)；宮川陽子氏(福井県立図書館)；前田笑氏(東近江市立八日市図書館)

大学図書館グループ：魚住英子氏(関西学院大学図書館)；中村健氏(大阪市立大学学術情報総合センター)；野上香織氏(京都大学附属図書館)

学校図書館グループ：中尾真麻氏(大阪府・箕面市学校司書)；山科文加子氏(岐阜県立恵那農業高等学校図書館)

専門図書館グループ：西尾純子氏(関西アメリカンセンター)；高木睦子氏(大阪府立特許情報センター)

国立国会図書館グループ：宇治郷毅氏(同志社大学)；元国立国会図書館副館長)；大月晶代氏(国立国会図書館本館)

大学院進学グループ：中島幸子氏(帝塚山大学)；瀬戸口誠氏(梅花女子大学)

6月30日(月)には、ソウル読書教育研究会顧問の宋永淑先生をお迎えして、公開講演会を実施した。宋先生は、児童サービスに関する研究者で、韓国国内だけでなく国際的にも多くの研究を発表してこられ、同時に、ソウル

を中心として韓国で家庭読書を推進してこられた。今回のご講演では、韓国の児童図書館サービスの歴史と、近年の児童図書館運動や子どものためのプログラムについてお話いただいたあと、家庭読書の活性化のために、ソウル読書教育研究会を中心に進められてきた多様なキャンペーンと活動を紹介していただいた。特に、読書キャンプと家庭おはなしフェスティバルは、家庭読書を活性化させるための優れた事例であるということで、詳しく具体的なお話をうかがうことができた。この講演会の記録は、〈特別講演会〉として、本誌に収載した。

夏休みの終わりには、14名の学生が宇治郷先生と中村の引率で、東京地区図書館見学会に参加した。9月17日（水）の14：00に東京駅に集合。かの有名な浦安市立中央図書館に向かった。今年は、初日は1館のみの見学とし、宿泊先の水月ホテル鷗外荘に戻った。しかし見学が時間オーバーしたうえに、図書館と駅の間の道路が少し混んでいたことも重なって、なんと予定を1時間超えて、ホテルに到着。交流会のために集まってくださっていた、本学卒業生の小谷俊介さん（国立国会図書館）、田山健二さん（TRC 販売株式会社）、中村保彦さん（文教大学湘南図書館）、原田隆史さん（慶應義塾大学）をお待たせしてしまった。本当に申し訳ありませんでした。来年はスケジュールをまたよく考えようと心に誓った。翌9月18日（木）は、午前中に国立国会図書館国際子ども図書館を見学。国立国会図書館本館に移動して、図書館の食堂で昼食。そのあと、図書館見学をして、急いで、福音館書店に向かった。今年は松居直さんのご講演は日程調整がうまくいかず、かなわなかったが、昨年もお会いした総務部の棚沢秀孝さんが、本当に暖かく迎えてくださって、今年も編集者さんのお話を聞かせていただいたり原画を見せていただいたりして、とても楽しい時間を過ごした。例年見学を受け入れていただいている国立国会図書館本館、同国際子ども図書館、福音館書店の皆さま、お忙しい中での見学の受け入れ、本当にありがとうございました。

また、年度末が近づいてきたころになって、筑波大学で開催されたA-LIEPでの発表が決まり来日することになったお二人の北米の研究者を本学にお迎えすることになり、急ぎ、「学びの共同体をはぐくむ学校図書館を考える」ミニ・シンポジウムと称して、2日にわたるイベントを企画、実施

した。初日は、3月5日（木）に、同志社女子中学・高等学校図書館で、同校司書教諭の家城清美先生らのご協力を得て、ハワイ大学の Dr. Violet Harada と、アルバータ大学の Dr. Jennifer Branch にご講演をしていただいた。平日の夕方から実施したのだが、参加者は30名に及び、短時間ながら刺激的な質疑応答も実現した。ご講演部分をまず本年報に掲載したのでお読み頂きたい。

さらに、3月22日（日）に、甲南高等学校・中学校図書館で、家城清美さん(同志社女子中学校・高等学校司書教諭)、中津井浩子さん(甲南高等学校・中学校司書教諭)、佐藤敬子さん(甲南高等学校・中学校司書)に「学びの共同体をはぐくむ学校図書館を考える」きっかけとなるようなお話をとお願ひして、日本側参加者のみで再度の集まりをもった。その日の3人の方たちのお話は、発表者の方たちご自身に整理しなおしていただいて、本誌に掲載したので、ぜひお読みいただきたい。日本での「学びの共同体をはぐくむ学校図書館」の実現に向けて、示唆に富むお話が続き、内容に厚みがあった。この日は、お3人の方たちに続いて次の5名のコメンテータの方たちにご発言いただき、フリーディスカッションをもった。時間の限界があったということもあり、意見がつながっていく形にまではならず、発言者お一人お一人の思いがその場を共有したみなの間でまとまりきれなかったような気もしたが、多様な背景をもつ人たちが集まって、限られた時間のなかではあるが、思い切り考えを述べ合い耳を傾け合ったことそのものが、意義深かったと個人的には思っている。コメンテータをお引き受けくださったのは、宇田川恵理さん（鳥取県立米子南高等学校司書）、河野隆一さん（関西学院中学部・高等部司書教諭）、児玉英靖さん（洛星中学校・高等学校教諭）、橋本直樹さん（同志社大学社会学部4回生）、山本志保さん（清教学園中学校・高等学校教諭）である。この時間についても記録をとればよかったのだが、すっかり失念していた。急いで手作りした会であったから頭がまわらなかった。とても残念である。

（文責・中村百合子）